



たんぽぽだより



令和7年3月号 No.116
 砂川市病児・病後児保育施設
 Tel 0125-54-2278

今年度も残すところあとわずか。厳しい寒さもようやく緩み、ぽかぽかとした陽気の日も増えてきましたね。今月も体調の変化に気を配りながら元気に過ごしていきたいですね。先月は、急性上気道炎、感染性胃腸炎、骨折などでの利用がありました。一年間、病児・病後児保育にご理解ご協力ありがとうございました。

令和7年度病児・病後児保育の事前登録をしませんか？

子どもが病気でも、仕事は休めない…。そんな時は病時・病後児保育事業をご利用ください。
 ※年度ごとの登録が必要です。



3月3日は「耳の日」です。耳は、音を聞いたり体のバランスを取ったりする役目があります。また、耳あかは、穴の出口に近い耳垢腺から出る粘り気のある液体と、古くなってはがれた皮膚が混じり合ったものです。耳あかは自然に押し出されてくるので、無理に奥まで掃除せず、耳穴の出口付近をきれいにすると良いですよ。



「3月3日」耳の日 知っておきたい耳の異常のサイン

3月3日は3（み）3（み）にちなんで「耳の日」。子どもは風邪などの感染症から耳のトラブルを起こすことがしばしばあります。早く対応できるように、耳の病気や聞こえの異常のサインを知っておきましょう。

耳の病気

子どもが風邪をひいて鼻水が出ているのを放っておくと、鼻水の中にウイルスや細菌が繁殖し、耳管を通して中耳に侵入して中耳炎を起こすことがよくあります。中耳の中で炎症が起こってうみがたまり熱を出すことや、鼓膜を圧迫するため強い痛みが起きます。また、鼓膜が破れてうみ（耳だれ）が出ることも。

発熱など、風邪の症状に加えて……

- ・しきりに耳を触る、頭を振る
- ・耳を触られるといやがる

痛みや違和感のために、耳を触ったり、頭を振ったりします。また、痛みのためにきげんが悪くなったり、夜なかなか寝なくなったりします。



聞こえの異常

聞こえの異常（難聴）には、生まれつき聴力が弱い場合と、病気が原因となっている場合があります。

難聴の原因となる病気は？

滲出性中耳炎

急性中耳炎が治りきらないと、中耳にサラサラとした液（滲出液）がたまりやすくなります。痛みや発熱などの症状がないため、発見が遅れることがあります。

おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）

原因となるウイルスが内耳（音を感じる部分）に感染して、難聴を起こします。流行性耳下腺炎の予防接種を受けて、感染を防ぐことが重要です。

聞こえの異常は、言葉の育ちにも影響します。子どもは「聞こえにくい」ことに気づきにくく、正確に言葉が聞き取れません。聞こえにくいサインを知って、早めに気づくことが大事です。

テレビの音

テレビの音が大きい

テレビの音を、必要以上に大きくします。



後ろから呼んでも気づかない

後ろから名前を呼んでも振り向かなかったり、返事をしなかったりします。左右差がある場合もあります。